

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 公明党議員団
2. 視察期間 平成26年5月21日 から 平成26年5月23日までの 3日間
3. 視察先 ① 福井県 福井市 ② 福井県 越前市 ③ 石川県 小松市
4. 視察項目 ① 学力向上について ② 夢ある子ども育成事業について ③ 空とこども絵本館・マイ保育園登録事業について
5. 参加者 〔委員(議員)〕 大野哲也 三宅智加子 平山伸二 今村智津子 塩塚敏郎
〔同行〕なし
〔随員〕なし
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 平成 26年 6月 18日 報告者 <u>大野 哲也</u> 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

①福井県 福井市

【人口】267,230 人【面積】536.19km²【一般会計】約 1,058 億円

★ 視察事項★ 学力向上について

文部科学省が行っている「全国学力・学習状況調査」では、小・中学校ともに福井県の子どもたちの平均正答率が全国平均を大きく上回り、都道府県別ランキングでは常に上位に位置している。さらには「全国体力テスト」においても、平成 22 年には小学生（5年生）、中学生（2年生）で男女とも1位となった。今や、福井は全国が注目する教育先進県だと言える。他県に比べれば人口も少なく、進学率を重視する私学や塾、大学の数も少ないのに、このような結果が出るのは何故なのか？福井県が持つ教育環境、その独自性と秘密に迫り、大牟田での教育環境向上に生かす方途を探るべく、今回視察先として選定した。

◎学力向上への取り組みの概要

近年、福井市が最も重要視している取り組みが「中学校区教育」というシステムとのことでした。これは同じ中学校区内（福井市は 23 校区）にある保育園・幼稚園、小学校、中学校らがそれぞれに連携して、意図的・計画的に一貫した取り組みを行い、また地域と協働した教育を進めるものです。例えば、福井市では小・中学校の先生が互いの授業を参観する場が積極的に設けられています。一般的に小学校の先生は幅広い学科の知識を必要とされるのに対し、中学校の先生は学科毎の専門的な知識が必要とされます。互いの授業を参観・研究することにより、より広い視野での授業手法や深い専門知識を学ぶことが出来ると同時に、保幼小中の先生みんなで地域の子どもたちを育てていこうという意識が生まれてきたそうです。入学時点で、先生がそれぞれの子どもへの適切な支援について知ることは、その後様々なギャップや悩みに直面する子どもたちを指導する上で大きな手助けとなるとのことでした。一方、児童・生徒にとっても、小・中学校を通じて共通の学習ルールや生活ルールが定められていたり、小学生に中学校での授業・部活動体験などの機会が設けられていたりすることで、新しい環境への抵抗感が少なくなったそうです。

また、福井市の多くの小学校では、授業を少人数に分けて行ったり、2人の教員でチームティーチングを行ったりすることで、子どもたちにきめ細かい指導ができる体制が整っているとのことでした。そして、もちろん福井の先生の教育への熱意が、子どもたちの学力向上に大きな影響を与えているようです。通常授業以外の夏休みや放課後に、個別に子どもたちを指導したり、中学校では進学に向けた補充学習を行ったりしています。また、先生方が家庭学習の評価・指導を充分に行うことにより、福井県の子どもたちは全国的に見ても、宿題を真面目に取り組む傾向があるそうです。また、先生自身も各所にて開催される研究会へ積極的に参加するなど、教育への熱心で高い意識がより密度の高い授業や生活指導を可能にするようです。さらには先生と生徒間での生活ノート（生徒が1日の感想と翌日の予定を書き、先生がそれに対してコメントを書くもの）を取り入れており、双方の意見や気持ちを分かり合うことで、個人個人へのケアも行っておられました。それ

らの取り組みの結果、実際に福井では不登校の問題も減少傾向にあるとのことでした。

◎委員の感想&考察

- ・ 統廃合などについて、大牟田市では話題になっているが、福井市では「学校規模の適正化の観点から必要だと思うが、現在は地域の文化の中心でもあり、考えていない」との話があり、落ち着いた感覚で議論して判断し、実践していることを感じた。
- ・ 学力テストについては、両極端の意見もあると思うが…？との質問に「福井は超保守的なところなので、あまり極端な反応はない」とのことであり、大牟田との地域差を感じた。
- ・ 学力が高い要因に、3世代同居が多いことや、まじめな気質の地域性などを通して説明があったが、「住みやすさ」や「幸福度」でも高い評価を受ける地域なので、担当者の「古き良き昭和のころの日本」という説明に納得した。
- ・ 今回の視察で、教育と地域、教職員、環境などの影響について総合的に判断する視点が大切であることに改めて気づかされたので、大牟田の教育にも反映させていきたい。



②福井県 越前市

【人口】83,606人【面積】230.75km²【一般会計】約 330.48 億円

★ 視察事項★ 夢ある子ども育成事業について

平成19年度に文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で、越前市は全国トップクラスの結果でした。しかし、同時に行われた調査において、将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合が、全国平均と比較して少ないという結果が出たそうです。市では、現在の日本において雇用不安や生活不安が増し、人々が夢を持ち、生きがいを感じることを忘れかけているのではないかと感じたが、そのような今だからこそ、未来を担う子どもたちに、自分の夢をしっかりと持ち、希望を抱いて生きてほしいと強く思ったそうです。子どもたちが、変化の激しいこれからの社会をたくましく生きるために、夢を持つこと、夢に向かって努力することの素晴らしさや大切さについて考える機会を積極的に設けていくことが私たち大人の使命だと考え、何か手だてがないものかと模索していたところ、子どもの豊かな心の育成を目指し、希望や目標をもって生きる力の育成を図っていきたいという日本サッカー協会の「こころのプロジェクト・夢

の教室」を知り、取り組んだとのことでした。大牟田でも取り組めるとよいのではないかと考え、視察先として選定した。

◎「夢の教室」に取り組んだ成果

授業を担当した全ての夢先生が、元気で、人間的な魅力を持ち、自分の経験や苦しみ
の時代などを熱い想いで語って下さり、授業に向けても、黒板に貼る掲示物や資料、自ら
使っていた用具の準備、話の進め方など、工夫と研究をされていた。様々な配慮により、
どの子も、ゲームの時間では、夢先生や友達との触れ合いを喜んでいる様子だったとの
こと。トークの時間では、夢先生の話をしっかり聞こうとし、自分の夢や希望を真剣に考え
ようとしていたそうです。この「夢の教室」の授業を受けたことにより、事前と事後アンケー
トを比較すると、小中学生とも、『夢を持ちたい』『夢を持つことは大切』『夢の実現には人
の協力が必要』など、どの質問項目も大きくパーセントが上がったそうです。また、夢をか
なえるためには、『目標を持つこと』『努力すること』『失敗してもあきらめないこと』などの
質問項目も大きくパーセントが上がりました。これらの結果は「夢の教室」の授業の効果で
あると言われていました。

◎委員の感想&考察

- ・ もともと取り組んだ契機は、サッカー協会の小倉元会長と市長が同じゼミで、
知り合いだったことや、小倉氏の御両親の出身地だったことなど、人のつなが
りや縁が大切だと改めて感じた。
- ・ 夢を持つことがあらゆる面のプラス効果につながることを学んだ。
- ・ 費用も少なくて済み、今後は大牟田の地でも具体的に取り入れられるか検討し
ていきたい。



③石川県 小松市

【人口】108,750 人【面積】371.13km²【一般会計】400.8 億円

★ 視察事項★ 空とこども絵本館・マイ保育園登録事業について

①空とこども絵本館

空とこども絵本館は、0歳からの絵本との出会いを推進するとして、随所に工夫が施されており、赤ちゃんが肌のぬくもりを感じながら、豊かな心と言葉を育み、家族と共に成長することを願っている施設であり、全国的にも先進的な施設であるため、大牟田市にも大いに参考になると考え、視察した。

◎特徴的な取組み及び委員の感想&考察

- ・ 土足禁止とし、子どもが様々な姿勢で読書できるし、木を存分に使用して落ち着いた雰囲気となっている。
- ・ マナーを伝承したりや運営にも積極的に関与するなど、ボランティアの方の協力関係も強固である。
- ・ ブックポストは置かず、ふれあい、対話しながらの貸し借りを基本としている。
- ・ 音楽と絵本の融合も考えられており、催しも盛んに行われている。



②マイ保育園登録事業

マイ保育園登録事業は、妊娠中から出産後の育児不安を解消するために、身近な保育所(園)、幼稚園で育児教室や育児相談を受けることができる制度で、産休明け以降のお子様は、「マイ保育園利用券」を使って平日午前半日預かりを無料で3回受けることができるとのことでした。全国的にも先進的な事業なので、大牟田市にも生かせることがあるのではないかと考えて視察しました。

◎特徴的な取組み及び委員の感想＆考察

- ・ かかりつけ医と同じように、保育園も入る前からかかわりを持つ、かかりつけ保育園を登録するという考え方は、不安を抱える若い母親には有効だと感じた。
- ・ 各園に1名以上県が主催する養成研修を受講した「子育て支援コーディネーター」を配置し、子育て支援プランを作成するなど、質の向上にも配慮している。
- ・ この制度が契機となり、子育てに不安を抱える人の早期発見支援にもつながり、予防にもなると感じた。
- ・ 地域の保育所が未登録家庭への声掛けを行っているが、中には登録につなげられないケースもあるとのことだった。
- ・ 保育士の不足により、登録後、スムーズに利用のない家庭の実態調査まで、できないなどの課題もあるとのことだった。

